

◇学長表彰に係る学生の学業並びに研究活動等の功績

<個人>

【大阪公立大学】

氏名 Name	ふりがな Furigana	推薦理由・成績(功績の内容) Reasons for Recommendation	【学会等における受賞等の場合に記入】 国際大会または国内大会 International competition or National competition / (開催年月日 date)	その他参考事項 Others ※学術誌であれば、タイトルや大会の規模・概要などを記載してください If it is an academic journal, please include the title, scale and outline of the conference, etc.
王 金函	おう きんかん	国際学術雑誌に、査読付の研究論文（当該申請期間に1本）が掲載された。		・ Wang J, Wang Z, Niu B. Empirical Analysis of Preferences of Older Adults for Care Facilities in Japan: Focusing on Household Structure and Economic Status. <i>Healthcare</i> 2023; 11(13). (URL: https://www.mdpi.com/2227-9032/11/13/1843)
王 子言	おう しげん	国際学術雑誌及び国内学術雑誌に、査読付の研究論文（当該申請期間に合計3本）が掲載された。		・ Wang Z, Fukayama K, Niu B. Does Long-Term Care Literacy Matter in Evaluating Older Care Recipients' Satisfaction with Care Managers? Empirical Evidence from Japanese Survey Data. <i>International Journal of Environmental Research and Public Health</i> 2023; 20(3): 345-352. (URL: https://www.mdpi.com/1660-4601/20/3/2456) ・ Wang J, Wang Z, Niu B. Empirical Analysis of Preferences of Older Adults for Care Facilities in Japan: Focusing on Household Structure and Economic Status. <i>Healthcare</i> 2023; 11(13). (URL: https://www.mdpi.com/2227-9032/11/13/1843) ・ 王子言, 牛 冰, 山野則子. 「日本のヤングケアラーのケア役割とケアに対する肯定的・否定的反応の関係—国際指標PANOC-YC20を用いた実証分析」『医療経済研究』第35巻第1号 2023年10月未発刊（採択済）
加藤 正元	かとう まさはる	右記大会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「CCAプレゼン賞」を受賞した。 ・ 標題「AI導入による建築積算業務の効率化基盤システム」 ・ 審査員に可能性を感じさせた企業に贈られる賞	建設テック×ピッチイベント CCA Startup Conference/ (2023/02/21) https://sites.google.com/view/contechcca/archive/2023	【大会概要】 主に建設業界（地域建設業）で活躍する企業役員・社員に向けたピッチコンテスト（プレゼンテーション大会） 【規模】 参加者数：不明 発表数：7件 受賞者数：4名、うちCCAプレゼン賞2名、最優秀賞1名、オーディエンス賞1名
岡本 一希	おかもと かずき	右記の学会①において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「The Best Poster Presentation Award」を受賞した。 ・ 標題「Comparison of genetic diversity and geographic genetic structure among three Japanese <i>Dioscorea</i> (Dioscoreaceae) species with different breeding systems」 ・ 内容 繁殖様式の異なるヤマノイモ属植物3種について、集団内の遺伝的多様性を広域的に調べた。カエデコロロとヤマノイモでは、集団特異的な遺伝子が見られた。一方、日本ではほぼ雄株しか生育していないニガカシュウの集団の対立遺伝子の組成は広域的に均一であった。この違いは、有性生殖を行う種の方が無性生殖のみを行う種よりも遺伝子型の多様性が高いためであると考えられた。 ・ 研究内容、発表技術がともに優れていると評価された。 右記の学会②において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「ポスター賞最優秀賞」を受賞した。 ・ 標題「繁殖様式の異なる日本のヤマノイモ属植物の地理的遺伝構造の比較」 ・ 内容 繁殖様式の異なるヤマノイモ属植物3種間で、地理的遺伝構造を比較した。種子生産によって増えるカエデコロロでは、クローンのみがみられなかった。むかごによる無性生殖のみを行うニガカシュウは、福岡県から愛知県にかけて広がる巨大なクローンを形成していた。種子生産と無性生殖の両方を行うヤマノイモは、個体群内小規模なクローンを形成していた。各種の繁殖様式が、地理的遺伝構造の形成に関わっていた。 ・ 研究内容、発表技術がともに優れていると評価された。	① 東アジア生態学連合 (EAFES)第10回大会) / (2023/7/18、韓国) ② 第70回 日本生態学会全国大会 / (2023/3/17)	【大会①の概要】 東アジアにおける自然環境に関する学術を発展のため、2年に1回開かれる、主に日本・韓国・中国の生態学研究者による国際会議です。 【規模】 参加者数：800人 発表数：合計17分野で516件（ポスター発表341件、口頭発表175件） 受賞者数：ポスター発表31名、口頭発表43名 【大会②の概要】 年に1回、産官学を問わず、生態学分野に関する研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会です。 【規模】 参加者数：1,150人 発表数：合計15分野で924件（ポスター発表683件、口頭発表241件） 受賞者数：43名、うち最優秀賞15名
師田 慧	もろた さとし	物理系の国際的学術ジャーナルに、第一著者論文1報、共著者論文2報が掲載された。		1. "Crystal structures and magnetic properties of verdazyl-based complexes with transition metals", H. Tsukiyama, S. Morota , S. Shimono, Y. Iwasaki, M. Hagiwara, Y. Hosokoshi, H. Yamaguchi, <i>Physical Review Materials</i> 6 , 094417 (2022) 2. "Magnetic anisotropy in verdazyl-based complex with cobalt(II)" S. Morota , Y. Iwasaki, M. Hagiwara, Y. Hosokoshi, and H. Yamaguchi, <i>Journal of Physical Society of Japan</i> 92 , 054705 (2023) 3. "A ladder-based 2D spin model in a radical-Co complex", H. Yamaguchi, Y. Tominaga, A. Matsuo, S. Morota , Y. Hosokoshi, M. Hagiwara, and K. Kindo, <i>Physical Review B</i> 107 , 174422 (2023)
竹内 未佳	たけうち みか	右記の学術誌に掲載された成果が、優れた内容であると評価を受けRSC Sustainability創刊号（2023年1月1日）の表紙に採択された。またRSC Sustainability 2023 Hot Papers（注目論文）にも選ばれている。加えて、RSC Sustainability誌に掲載された論文のうち優れた内容の著者が選ばれ、イギリス立化学会が主催するCOP27への提言「RSC Sustainability and COP27」と題したライブ配信において二酸化炭素からプラスチック原料を製造する有用性を提言した。 ・ 標題「Phosphate-induced enhancement of fumarate production from a CO ₂ and pyruvate with the system of malate dehydrogenase and fumarase」 ・ 2つの生体触媒を複合させたシステムを構築し、生分解性プラスチックやエッジニアプラスチックの原料となるフマル酸を二酸化炭素と生物由来のピルビン酸から合成することに成功した。さらにこのシステムにリン酸を添加することでフマル酸収率を向上させることを達成した。 ・ 従来広く研究されている二酸化炭素を単純にメタノール等の燃料に変換するのではなく、二酸化炭素を生物由来の化合物に化学的に固定し、プラスチック原料に変換することで、単に二酸化炭素を分子変換するだけでなく長期間分子に貯留できる画期的成果と評価された。	イギリス立化学会発刊 RSC Sustainability誌 / (2023/1/1)	論文タイトル：Phosphate-induced enhancement of fumarate production from a CO ₂ and pyruvate with the system of malate dehydrogenase and fumarase 掲載誌：RSC Sustainability 2023, 1, 90-96
花市 勇音	はないち ゆうと	従事した研究の一部を、アメリカ化学会(ACS)の国際学術誌Chem. Res. Toxicol.に共著者の一人として発表した(右記)。同誌は毒性学分野で権威のある査読付き雑誌であり、インパクトファクターは3.973である。なお当該研究は教室員指導のもと、国際共同研究としておこなわれた。出版日は2022年10月25日であった。		SPRTN and TDP1/TDP2 Independently Suppress 5'-Aza-2'-deoxycytidine-Induced Genomic Instability in Human TK6 Cell Line, Toshiaki Nakano, Takahito Moriwaki, Masataka Tsuda, Misa Miyakawa, Yuto Hanaichi , Hiroyuki Sasanuma, Kouji Hirota, Masanobu Kawanishi, Hiroshi Ide, Keizo Tano, Tadayoshi Bessho, <i>Chem. Res. Toxicol.</i> 2022, 35, 2059-2067
大村 美香	おおむら みか	第16回次世代を担う若手のための医療薬科学シンポジウム「優秀発表賞 (YCPS 2022 Best Presentation Award)」の受賞。 (授賞式は「医療薬学フォーラム2023」(2023年7月23日開催)) ・ 発表題目「Inkjet system-based cytosolic delivery using cell-penetrating peptides」 ・ 内容：インクジェットシステムと膜透過性ペプチドを組み合わせることで、がんを含む疾患関連細胞への薬物送達基盤手法として世界で初めて成功した。本技術で、抗体（分子量が約15万）を含むタンパク質・ペプチド・細胞外小胞等の巨大分子を狙った細胞群の細胞内へ導入できることが示された。 ・ 評価を受けた点：従来の細胞障害による薬物送達法（細胞毒性が高い）とは異なり、開発したインクジェットシステムと膜透過性ペプチドの組み合わせ技術は細胞障害を与えずにサイトゾルに導入できる世界初の画期的な手法として高い評価を得た。	第16回次世代を担う若手のための医療薬科学シンポジウム (2022/10/29-30：和歌山県立医科大学) (授賞式は「医療薬学フォーラム2023」(2023年7月23日開催：山形大学))	【大会概要】 本大会のメインテーマ「パンデミックの経験を生かした医療薬科学研究～命のバトンに希望をのせて、近未来の予防・創薬・治療戦略につなぐ～」を掲げ、医療薬科学における若手研究者の育成を主な目的とした学会（年1回、16回目）。 【規模】 参加者数：150人 発表数：29件（審査対象） 受賞者数：6名（優秀発表賞 (YCPS 2022 Best Presentation Award)）
小前 奏明	こまえ そうめい	候補者は、筆頭著者としてBiochemical and Biophysical Research Communications誌に学術論文を投稿し、優れた内容が認められて論文が受理・掲載刊行されており、これらの功績により本学の名誉向上に貢献したため。		論文タイトル：2-Oxo-imidazole dipeptides inhibit peroxynitrite-dependent tyrosine nitration. (2023/5/20)
金野 文香	きんの あやか	研究成果を右記の2つの科学雑誌に筆頭著者および筆頭著者として投稿した。 発表論文-1は、22種類の野菜に含まれる有機硫黄種の高選択的定量解析に世界で初めて成功した研究であり、ニンニクやタマネギに超硫黄分子（硫黄が連結した構造を持つ硫黄化合物）が豊富に含まれていることを明らかにした。 発表論文-2は、アルツハイマー病モデルマウスの脳内において超硫黄分子特異的定量解析を行った研究であり、アルツハイマー病発症時に脳内の超硫黄分子量が低下していることを明らかにした。 特に、発表論文-1は、本学HPだけでなく複数の著名な海外メディア（EurekAlert!, AlphaGalileo, AsiaResearchNews）にてプレスリリースされ、本学の名誉向上にも貢献した。		【発表論文-1】 Kasamatsu, S., Kinno, A., Hishiyama, J. I., Akaike, T., & Ihara, H. "Development of methods for quantitative determination of the total and reactive polysulfides: Reactive polysulfide profiling in vegetables." <i>Food chemistry</i> , 413, 135610. (2023)[Impact factor (IF): 9.2] 本論文を投稿したFood Chemistryは食品化学と食品生化学またはその分析法等の発展に寄与する論文が掲載される科学雑誌である。 【発表論文-2】 Kinno, A., Kasamatsu, S., Akaike, T., & Ihara, H. "Reactive Sulfur Species Omics Analysis in the Brain Tissue of the 5xFAD Mouse Model of Alzheimer's Disease." <i>Antioxidants</i> (Basel, Switzerland), 12(5), 1105. (2023)[Impact factor (IF): 7.0] 本論文を投稿したAntioxidantsは抗酸化物質の科学と技術に関連する論文が掲載される科学雑誌である。
石井 航	いしい わたる	右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「 <i>Journal of the American Chemical Society</i> Poster Award」を受賞した。 ・ 講演題目「Enhanced Near-infrared Emission and Excited State Dynamics in Silver Nanoclusters」 ・ 内容：近赤外線において最も高い発光量子収率を示す金属ナノクラスターを開発し、その機序解明を行った。 【その他特記事項】 当該表彰対象業績に関連して①の学術論文を筆頭著者として執筆し、②全国規模の学会においても表彰されている。 ① "Excited State Engineering in Ag29 Nanocluster through Peripheral Modification with Silver(I) Complexes for Bright Near-Infrared Photoluminescence", <i>J. Am. Chem. Soc.</i> 2023, 145, 11236-11244. (Supplementary cover)に採択 ②日本化学会第110回春季年会[K505-3pm-02] 学生講演賞	31st International Conference on Photochemistry (ICP2023) (2023/7/23-28)	【大会概要】 2年に一度、光化学分野に関する研究成果の発表、議論を行う国際学会です。 【規模】 参加者数：約600名 発表数：530件（ポスター発表280件含む） 受賞者数：15名、うち <i>Journal of the American Chemical Society</i> Poster Award 1名
吉田 萌	ふるた もえ	右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「優秀ポスター賞」を受賞した。 ・ 標題「荷電反転特性を有するポリカルボン酸で被覆した TiO ₂ ナノ粒子内包三元複合体の調製」 ・ 内容：生理的条件下では良好な分散安定性を示しつつ、細胞内弱酸性環境では界面に吸着したポリマーが脱着しエンドソーム脱出が可能となるTiO ₂ ナノ粒子内包複合体を調製し、超音波力学的法による癌治療への可能性を示すことに成功した。 ・ 評価を受けた点：優れたポスター発表を行ったことが評価された。	第 72 回高分子学会年次大会 / (2023/5/24-26)	【大会概要】 年に1回、産官学を問わず、高分子に関する研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会です。 【規模】 参加者数：4,000人 発表数：2000件（ポスター発表含む） 優秀ポスター受賞者数：59名
山中 里奈	やまなか りな	右記のスカラシップで行った発表が、優れた内容であると評価を受け「スピーチ部門 奨励賞」を受賞した。 ・ 発表タイトル「中国語：梦想科技与我的梦想」（日本語意味：夢の技術と私の夢） ・ 内容(日本語要約) 「研究室で全固体電池を研究しており、中国語も4年間勉強した。今は台湾のプロロジウムテクノロジーという会社の全固体事業に興味があるので台湾留学したい。」	第19回日台文化交流青少年スカラシップ/(2023/3/16)	【大会概要】 年に1回、日本と台湾の青少年による文化交流促進を目指し、産経新聞社が主催、台北駐日経済文化代表処が共催しているスカラシップ。作文部門（言語：日本語）とスピーチ部門（言語：中国語、台湾語）で作品を募集。テーマはいずれも台湾に関すること。 【規模】 参加数：286点 <作文部門> 大賞：1名、優秀賞：7名、奨励賞：12名、佳作：10名 <スピーチ部門> 大賞：1名、優秀賞：5名、奨励賞：6名

大橋 歩実	おおはし あゆみ	右記の学会において行った発表が、優れた発表であると評価を受け「優秀賞」を受賞した。 ・ 標題「金属有機錯体粒子の複数薬物キャリアとしての応用」	第25回化学工学学会学生発表会 / (2023/3/4)	【大会概要】 年に1回、高校生、高専生および大学生が、化学工学、エネルギー、資源・環境、生物等に関する研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会です。 【規模】 受賞対象講演数：479件 受賞者数：優秀賞45名
柏井 梨花	かしわい りか	右記の学会において行った発表が、優れた発表であると評価を受け「優秀賞」を受賞した。 ・ 標題「溶媒のイオン強度がナノ粒子の細胞膜透過に及ぼす影響」	第25回化学工学学会学生発表会 / (2023/3/4)	【大会概要】 年に1回、高校生、高専生および大学生が、化学工学、エネルギー、資源・環境、生物等に関する研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会です。 【規模】 受賞対象講演数：479件 受賞者数：優秀賞45名
杉本 萌々子	すぎもと ももこ	右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「優秀賞」を受賞した。 ・ 標題「農業キャリアの混練・造粒操作と圧縮試験による最適な処方決定」	第25回化学工学学会学生発表会 / (2023/3/4)	【大会概要】 年に1回、高校生、高専生および大学生が、化学工学に関する研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会です。 【規模】 受賞対象講演数：479件 受賞者数：優秀賞45名
松原 武輝	まつばら たけき	2023年3月4日、全国規模のオンラインで開催された第25回化学工学学会学生発表会において、「アシルキャリアタンパク質の高発現によるアルカンの生成に優れた大腸菌の開発」と題した口頭発表を行い、優秀賞を受賞し、本学の名誉向上に貢献した。	第25回化学工学学会学生発表会 / (2023/3/4)	【大会概要】 年に1回、高校生、高専生および大学生が研究成果の発表を行う全国規模の発表会 【規模】 参加者数：862人 発表数：371件（口頭発表） 優秀賞数：45件 松原 武輝・韓 佳虎・浅野 益輝・松本 拓也・山田 亮祐・萩野 博康 アシルキャリアタンパク質の高発現によるアルカンの生成に優れた大腸菌の開発
安井 伊吹	やすい いぶき	右記の研究発表会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「The 1st YOUNG POSTER AWARD」を受賞した。 ・ 標題「Synthesis of platinum complex as a linker for functionalization of naturally occurring DNA and their composites with gold nanoparticles」 ・ 内容一金ナノ粒子と天然由来DNAを複合化させるためにリンカー錯体を合成し、複合化を試みた。 ・ 評価を受けた点一設計したリンカー錯体の合成に成功し、金ナノ粒子と相互作用することが見いだされた。その発表内容について高い評価を得た。	学術変革領域研究(A)「超セラミックス」 第3回領域会議 若手スクール	【大会概要】 年に2回、超セラミックスを研究する若手を中心に研究内容の発表・議論・交流を行うための発表会です。 【規模】 参加者数：約100人 発表数：37件(ポスター) 受賞者数：5名
三戸田 健太	みとだ けんた	右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「ALPS2023 Student Award (Poster Session)」を受賞した。 ・ 標題「High efficiency photoluminescence of InGaN/GaN quantum wells by depositing dielectric thin films and UV laser irradiation」 ・ 内容：InGaN/GaN QWsを用いた発光ダイオードにおいて、酸化物薄膜に紫外レーザー照射を行うと著しい発光増強が生じることをこれまでに報告した。今回は、その増強機構を考察し、Gaの空孔欠陥を薄膜の原子が埋めることにより発光が増強されることを解明した。さらに、Al ₂ O ₃ 薄膜が発光増強の点から最適であることを実証した。 ・ 評価を受けた点：発光ダイオードへの紫外線照射によって、容易に発光増強が達成できることを実証し、これは薄膜の原子が空孔血管を埋めることによることを解明した。この技術を用いて、発光強度の低い緑色発光ダイオードの発光増強に寄与できる可能性を示したことに高い評価を得た。	第90回 The 12th Advanced Lasers and Photon Sources ALPS2023/ (2023/4/20)	【大会概要】 年に1回、産官学を問わず、レーザー分野に関する研究成果の発表、議論を行う日本で開催される国際学会です。 【規模】 参加者数：1063人 発表数：183件(ポスター発表含む) 受賞者数：10名(口頭4名、ポスター6名)
皆川 尚樹	みながわ なおき	右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「学生賞」を受賞した。 ・ 標題「Investigation for material dependence of laser ablation thrust using electrostatic levitation furnace」 ・ 内容 上記表題について、英語で口頭発表を行い、質疑応答を行った。	The 2022 Asia-Pacific International Symposium on Aerospace Technology / (2022/10/12-10/14)	【大会概要】 年に1回、産官学を問わず、航空宇宙分野に関する研究成果の発表、議論を行う国際規模の学会です。 【規模】 参加者数：不明 発表数：200件(ポスター発表含む) 受賞者数：4名
米山 まうむ	よねやま まうむ	右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「学生最優秀研究発表賞」を受賞した。 ・ 標題「Nullspace Projectionを適用したMUSIC法によるスプーフィングの方向推定」 ・ 内容：GNSS信号はマルチパスやスプーフィングなどの不要波の影響を受けるため、アレーアンテナを使いスプーフィング信号の到来方向を推定可能かどうかを検証した。 ・ 評価を受けた点：良好な結果が得られており、アレーアンテナの小型化と合わせスプーフィングの除去により高精度測位が可能になることが期待される。	令和4年度、測位航法学会主催、全国大会研究発表会 / (2023/5/17-19)	【大会概要】 年に1回、産官学を問わず、航法測位分野に関する研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会です。 【規模】 参加者数：80人 発表数：16件(うち学生10件) 受賞者数：学生最優秀研究発表賞1名、学生優秀研究発表賞2名
手銭 永遠	てぜん とわ	右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「軽金属溶接協会 優秀発表賞」を受賞した。同賞は本研究発表会における最高賞である。 ・ 標題：アルミニウム合金溶接時におけるHAZ割れ評価に関する力学的検討 ・ 内容：アルミニウム合金は加工性に優れていることや接合が容易なことから、様々な用途に使用されている。しかし、問題点として、ひずみ易く割れが発生しやすいことから、手直し溶接のために生産コストの増産や生産効率の低下が起きている。よって本研究では、アルミニウム合金溶接時に発生するHAZ割れに対するメカニズムの解明を行うため、FEM熱弾塑性解析を適用し、溶接時に発生する凝固割れとHAZ粒界液化割れの発生条件について検討を行った。 ・ 評価を受けた点：ものづくりに直結したテーマで有益な発表内容だった点、図表に工夫が施されており、わかりやすい発表だった点など	一般社団法人 軽金属溶接協会 2022年度年次講演大会 研究成果発表会	【大会概要】 年に1回、軽金属溶接分野に関する研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会です。 【規模】 発表数：20件程度 受賞者数：4名
河原 雄一朗	かわはら ゆういちろう	右の学会において行った発表について、優れた内容と発表である評価され「優秀講演賞」を受賞した。 ・ 標題「フミン酸溶液を溶媒としたカラム溶出試験による焼却飛灰中のPCNsの溶出挙動」 ・ 内容：残留性有機汚染物質として挙動が目まはるポリ塩化ナフタレン(PCNs)の焼却灰からの溶出挙動を把握するために、フミン酸と蒸留水を溶媒とするカラム試験を実施し、フミン酸によりPCNsの溶出が促進される事を示した。	第33回 廃棄物資源循環学会 研究発表会 (2022/9/22) https://jsmcwm.or.jp/taikai2022/	【大会概要】 年に1回、産官学を問わず、廃棄物分野に関する研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会です。 【規模】 参加者数：900人 発表数：口頭発表188件、ポスター発表57件、International session27件 受賞者数：優秀講演賞6件、優秀ポスター賞6件、など
森川 和慶	もりかわ かずよし	右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「Poster Award」を受賞した。 ・ 標題「塗布型イメージセンサの高機能化に向けた有機フローティングゲートメモリのシナプス特性の評価」 ・ 内容：有機半導体を用いて作製した有機フローティングゲートメモリが照射する光の強度に応じて記録密度が変化するシナプス特性を発現することを見出した。この特性を利用することで有機イメージセンサにコントラスト強調やノイズ除去等の前処理機能を付加できることを示した。 ・ 評価を受けた点：著者が開発した新規有機フローティングゲートメモリにおいて、これまでに国内では殆ど研究が行われていない3端子デバイスのシナプス特性を明らかにした点にある。 右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「スチューデントアワード」を受賞した。 ・ 標題「塗布形成した電荷蓄積層を有する不揮発性有機トランジスタメモリにおけるシナプス特性」 ・ 内容：光照射下で電圧印加により書込を行うことで良好なメモリ特性を示す有機フローティングゲートメモリにおいてシナプス特性が現れることを示した。更に、照射光に応じて現れるシナプス特性の起源を明らかにするため、分光感度測定や緩和時間測定を行った。 ・ 評価を受けた点：上記と同じである。	第83回 応用物理学会秋季学術講演会 / (2022/9/20-2022/9/23) 薄膜材料デバイス研究会 第19回研究会 / (2022/11/17-2022/11/18)	【大会概要】 応用物理学会が主催し、毎年、春と秋に学術講演会を開催している。産官学を問わず、半導体、光・量子エレクトロニクス、新素材など工学と物理学の接点にあるテーマの研究発表、議論を行う全国規模の学会である。 【規模】 参加者数：約6,000人 ポスター発表数：676件 受賞者数：14名 (Poster Award) 【大会概要】 薄膜半導体・絶縁体・電極材料・それらの物理・エンジニアリングについて、分野間の垣根を取り払い広く議論することを目的とし、年に1回開催される全国規模の学会である。 【規模】 参加者数：198名 発表数：58件(ポスター発表を含む) 受賞数：4名(スチューデントアワード)
木下 喬之	きのした たかゆき	右記の学会において行ったポスター発表が、優れた内容であると評価を受け「最優秀ポスター賞」及び「日本画像学会編集委員長賞」を受賞した。 ・ 標題「機械学習によるCdSe量子ドット赤色発光ダイオードの効率予測」 ・ 内容：次世代の高精細ディスプレイ開発において量子ドット発光ダイオード(QLED)が大きな注目を集め、研究開発が活発化している。本研究では、機械学習を用いて赤色発光するCdSeを用いたQLEDの効率を予測する機械学習モデルを構築し、実験的に得られた効率支配因子の妥当性を示した。 ・ 評価を受けた点：機械学習に自己無観着に数値シミュレートされたデータセットを利用し、更には高効率化のための正孔輸送層の電子物性を予測できた点にある。	画像関連学会連合会第8回秋季大会 / (2022/11/21-2022/11/22)	【大会概要】 一般社団法人日本画像学会が主催する画像分野に関する学会であり、年に2回の年次大会が開催される。産学官から発表が行われる全国規模の学会であり、ディスプレイや印刷等の関連分野からの参加者も多い。 【規模】 発表数：84件(ポスター発表26件を含む) 受賞者数：1名(最優秀ポスター賞及び編集委員長賞)
一瀬 海都	いちわら かいと	右の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「第42回粘着技術研究会最優秀発表賞」を受賞した。 表題：「BOC保護したヒドロキシ基を含むアクリル酸エステル共重合体を用いた易解性粘着剤の設計」 発表者：○一瀬海都、坂本龍哉、鈴木祥仁、松本卓一 講演番号 22PP-10 第42回粘着技術研究会産学交流ポスターセッションにおいて、表記のポスター発表を行った。また、WEB参加者に対して事前ポスター説明(要約版)を録画してポスター発表時間内に遠隔地からの参加者に配信する形で研究発表を行い、審査の結果、最優秀発表賞を受賞した。	第42回粘着技術研究会 / (2022年11月24-25日)	【大会概要】 年に1回、粘着技術に関連して全国で開催されている学会で、2日間の講演とあわせて、学生によるポスター発表の機会が設けられている。粘着材料・技術ならびに接着・高分子材料・技術に関連した研究を行っている各大学に所属する大学院生が研究成果を発表 【規模】 参加人数：約200人 発表数：12件(ポスター発表件数)、講演約25件(招待講演、特別講演など) 受賞者数：2名
松並 吉友加	まつなみ あゆか	右の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「第72回高分子学会年次大会 優秀ポスター賞」を受賞した。 ・ 表題「BOC保護ポリメタクリル酸2-ヒドロキシエチルブシンの作製と特性評価」 ・ 内容：親水・疎水パターンのデザインされた基板は、空気中の水回収など機能性表面としての応用が期待されている。しかしながら、現在までに提案された基板は、高コストで大面積への拡張の面で問題があった。本研究では、有機化学で用いられる保護・脱保護に着目した。一般的な官能基が親水性であり、保護基が疎水性であることを用いて、表面の親水・疎水部位を制御可能であることを示した。研究内容およびデータの質と量が評価された。	第72回高分子学会年次大会 / (2023/5/24-2023/5/26)	【大会概要】 年に1回、高分子科学に関する研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会です。 【規模】 参加人数：2500人 発表数：819件(ポスター発表のみ) 受賞者数：59名

貞包 得弥	さだかね まさや	<p>右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「優秀ポスター賞」を受賞した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題「ミニエマルション系における炭素触媒を利用した可逆的連鎖移動触媒重合」 ・ 内容：環境適応型媒体である水中で高分子を合成できるミニエマルション重合で、リビングラジカル重合の一種である可逆的連鎖移動触媒重合を適用することに成功し、さらに微粒子合成時に必要不可欠な界面活性剤の影響を明らかにした。 ・ 評価を受けた点：優秀なポスター発表を行ったことが評価された。 	第 72 回高分子学会年次大会/ (2023/5/24-26)	<p>【大会概要】 年に1回、産官学を問わず、高分子に関する研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会です。</p> <p>【規模】 参加者数：約4,000人 発表数：約2000件（ポスター発表含む） 優秀ポスター受賞者数：59名</p>
伊藤 魁	いとう かい	<p>右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「優秀賞」を受賞した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題「機械学習を用いた融氷剤の融氷メカニズムの考察」 ・ 内容：融氷剤のメカニズムを解明するために、約 40 種類の融氷剤の融氷能力と各融氷剤の物性値を測定したデータを機械学習で解析を行った。 ・ 評価を受けた点：化学の分野に対して機械学習を用いて解析することにより、正確かつ精度の高い解析ができ、そこから考えたメカニズムの考察が評価された点である。 	第35回 日本セラミックス協会 秋季シンポジウム (2022/9/14-16)	<p>【大会概要】 年に1回、産官学を問わず、セラミックス分野に関する研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会です。</p> <p>【規模】 参加者数：約2,000人</p>
岡井 悠貴	つづい ゆうき	<p>右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「Young Scientist Poster Award」を受賞した。</p> <p>課題：「Synthesis of Polyamines with Low Michael Addition Reactivity and Their Application to Dismantlable Adhesives Based on Epoxy Resin Containing Vinyl Groups」</p> <p>内容：架橋剤として利用するポリアミンを設計することで、接着剤層の硬化収縮を制御し、易解体性接着剤の接着強度および解体性の向上を達成したことを発表した。</p> <p>評価を受けた点：研究成果とその内容に関するプレゼンテーション、研究に対する熱意について高い評価を受けた。</p>	The 13th SPSJ International Polymer Conference (2023/7/18-21)	<p>【大会概要】 (社)高分子学会 (SPSJ) が1984年から主催する国際会議であり、近年は2年に1回開催されていたが、今回は2018年以来の開催であった。世界の高分子化学に関わる研究者および技術者を対象とし、高分子化学全般に関する最新の研究成果の発表および議論を行っている。</p> <p>【規模】 参加者数：1,000人 発表数：口頭発表360件、ポスター発表395件 受賞者数：Poster Awards: 55名、うち IPC2023 Young Scientist Poster Award 32名 (IPC2023 Young Scientist Poster Awardはポスター賞の上位者に贈られる賞である)</p>
板垣 賢広	いたがき さとひろ	<p>①右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「優秀ポスター賞」を受賞した。</p> <p>研究題目「分子インプリントポリマー被覆金属ナノ構造体の開発」</p> <p>②右記の学会において行ったポスター発表が、優れた内容であると評価を受け「Aggregate Award」を受賞した。</p> <p>研究題目「Detection of Food Poisoning Bacteria Using Molecularly Imprinted Organic-Inorganic Nanocomposites」</p>	①日本分析化学会第 83 回分析化学討論会 (2023/5/20)	<p>①【大会概要】 年に1回、分析化学分野に関する研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会です。</p> <p>【規模】 発表数：127件 受賞者数：13名</p> <p>②【規模】 発表数：395件 受賞者数：55名 うち「Aggregate Award賞」3名</p>
今吉 優輔	いまよし ゆうすけ	<p>右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「優秀学生賞」を受賞した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題「実生産打錠プロセスにおける打錠障害発生予測手法の開発」 	化学工学会第88年会/ (2023/3/15-17)	<p>【大会概要】 年に1回、産官学を問わず、化学工学に関する研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会です。</p> <p>【規模】 ポスター発表数：274件 受賞者数：39名、うち最優秀学生賞6名、優秀学生賞33名</p>
大津 智隆	おおつ ともたか	<p>右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「優秀学生賞」を受賞した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題「湿潤粉体のDEMシミュレーションにおける波束力モデル実装方法の検討」 	化学工学会第88年会/ (2023/3/15-17)	<p>【大会概要】 年に1回、産官学を問わず、化学工学に関する研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会です。</p> <p>【規模】 ポスター発表数：274件 受賞者数：39名、うち最優秀学生賞6名、優秀学生賞33名</p>
嶋本 健人	しまもと けん	<p>①右記の学会において行った発表が、優れた研究発表をなされた、あるいは討論等によりこの会議を盛り上げた若手研究者を対象とした「EMS賞」を受賞した。</p> <p>[発表論文のタイトル] Effects of Laser Irradiation Conditions on Phase Formation of Multiferroic YbFeO₄ Thin Films in PLD method</p> <p>[内容] パルスレーザー堆積法(PLD法)において、プラズマブームの発光スペクトルをin-situ測定し、レーザー照射による供給原子活性種の精密な制御を行う手法が、電子強誘電体YbFe₂O₄エピタキシャル薄膜の相形成の制御に有効であることを示した。</p> <p>②右記の学会において行った発表が、優れた研究発表と評価を受け、「EXCELLENT PRESENTATION AWARD」を受賞した。</p> <p>[発表論文のタイトル] Effects of the Laser Fluence on the Precise Phase Control of YbFeO₄ Electronic Ferroelectric Thin Films</p> <p>[内容] 上記と同様の手法によって、電子強誘電体YbFe₂O₄エピタキシャル薄膜のFe/Yb組成比や格子定数に及ぼす影響を調査し、報告した。</p>	①第 4 1 回電子材料シンポジウム (2022/10/19-21) 発表日：2022/10/20	<p>①【大会の概要】 ※ HPより抜粋 このシンポジウムは、1982年に京都大学の佐々木昭夫教授を代表者とする文部省科学研究費補助金特定領域研究「混晶エレクトロニクス」の研究会として発足しました。1995年からは、対象分野をさらに広げ「電子材料シンポジウム (EMS)」として、討論を中心とするユニークな研究会として多くの方々から支持をいただいております。</p> <p>【規模】 口頭発表数 85名のうち受賞者数 3名</p> <p>②【大会の概要】 この会議は、1994年に釜山大学で開催されて以来、理論と実験の両面から、強誘電体の基礎から応用までの全領域をカバーする学術会議である。日韓両国の研究者の二国間協力を促進し、強誘電体の研究成果や新しいアイデアを交換することを主な目的とする。</p> <p>【規模】 参加者数135名、口頭発表者数 (当該表彰対象者) 13名のうち受賞者数 不明</p>
大西 照晃	おおにし てるあき	<p>右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「若手優秀発表賞」を受賞した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題「雄マウス褐色脂肪組織での熱産生におけるアンドロゲン受容体の作用とその分子機構」 ・ 本賞は、口頭発表者のうち、学生と学位取得後3年以内の発表者が対象であり、当日の発表に対して審査を行い、特に優れた発表者を表彰するものである。 ・ 審査基準において評価された。 	第95回 日本生化学会大会/ (2022/11/11)	<p>【大会概要】 年に1回、産官学を問わず、生化学分野に関する研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会です。</p> <p>【規模】 発表数：2312件（ポスター発表含む） 若手優秀発表賞数：63名</p>
松本 隆聖	まつもと りゅうせい	<p>①右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「Journal of Inorganic Biochemistry Poster Award」を受賞した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題「Artificial Metalloenzymes with 2-His-1-carboxylate Facial Triads toward Stereoselective Michael Addition Reaction」 ・ 内容：活性中心が振動され活性が向上した新規な酵素を構築した ・ 評価を受けた点：優れた内容、優れた発表、優れた質疑応答 <p>②右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「優秀ポスター賞」を受賞した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題「立体選択的ヘテロDiels-Alder反応を志向した人工金属酵素の創製」 ・ 内容：非常に高いエンドエナント選択性を示すアルドラーゼを構築した ・ 評価を受けた点：優れた内容、優れた発表、優れた質疑応答 <p>③右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「優秀ポスター賞」を受賞した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題「立体選択的ヘテロDiels-Alder反応を触媒する人工金属酵素の創製」 ・ 内容：非常に高い立体選択性を示すアルドラーゼを構築した ・ 評価を受けた点：優れた内容、優れた発表、優れた質疑応答 <p>④Impact Factorの高い雑誌に掲載された</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題「An Artificial Metalloenzyme with Pliable 2-His-1-Carboxylate Facial Triad for Stereoselective Michael Addition」 ・ 内容：活性中心が振動され活性が向上した新規な酵素を構築した 	①10th Asian Biological Inorganic Chemistry Conference (AsBIC-10) (2022/11/28-12/3)	<p>①【大会概要】 2年に1回、金属タンパク質や金属が関わる細胞内の反応に関して研究成果を発表、議論を行う国際会議です。</p> <p>【規模】 参加者数：500人 発表数：129件（ポスター発表のみカウント） 受賞者数：12名、うち Journal of Inorganic Biochemistry Poster Award 2名</p> <p>②【大会概要】 年に1回、生体関連化学に関して若い人が集まり研究成果を発表、議論を行う全国規模の研究会です。</p> <p>【規模】 参加者数：180人 発表数：48件（ポスター発表のみカウント） 受賞者数：5名</p> <p>③【大会概要】 年に1回、生体関連化学に関して若い人が集まり研究成果を発表、議論を行う全国規模の研究会です。</p> <p>【規模】 参加者数：100人 発表数：58件（ポスター発表のみカウント） 受賞者数：5名</p> <p>④Ryusei Matsumoto, Saho Yoshioka, Miho Yuasa, Yoshitsugu Morita, Genji Kurisu and Nobutaka Fujieda* Chem. Sci., 14, 3932-3937 (2023).</p>
光山 容仁	みつやま やすひと	<p>光山容仁 (医学研究科大学院 2年) は、当教室において医療分野における人工知能の活用を研究課題として取り組んでいる。今年度、その研究成果として「Chest radiography as a biomarker of ageing: artificial intelligence-based, multi-institutional model development and validation in Japan」と題した英語原著論文が医学界最高峰の雑誌の一つであるThe Lancet Healthy Longevity (impact factor = 13.1)に 2023/7/5にacceptされた。同論文は、2023/8/17にプレスリリースされ、読売テレビといったメディアでも取り上げられた。さらに第82回日本医学放射線学会総会において、「人工知能による胸部レントゲン写真から年齢の推定」と題した演題を発表し、Cypos賞を受賞した。これらの類稀なる業績を鑑みて強く推薦いたします。</p>	第82回 日本医学放射線学会総会/ (2023/4/13-16)	<p>【掲載論文】 【学術誌IF】 13.1 (2023年時点)</p> <p>【大会概要】 年に1回、産官学を問わず、放射線医学分野に関する研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会です。</p> <p>【発表タイトル】人工知能による胸部レントゲン写真から年齢の推定</p> <p>【規模】 参加者数：22,000人 発表数：200件（ポスター発表含む） 受賞者数：24名</p> <p>【プレスリリース、メディア】 添付資料を参照ください。</p>
大類 淳矢	おおるい じゅんや	<p>右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「大会長賞」を受賞した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題「作業療法場面で副交感神経活動を高めるための治療構造に関する検討」 ・ 内容：若年健康者30名の単独条件、並行条件での手工芸活動中の脳波と自律神経活動を測定することにより、並行条件で副交感神経活動及び並行条件でその場に存在する他者との心拍の同調性が単独条件より高いこと、注意集中状態の脳波指標であるFmθが出現する群は出現しない群よりも副交感神経活動が高く、他者との心拍の同調性は低いことが明らかとなった。これらより、作業療法場面で副交感神経活動を高めるためには並行条件で強い集中状態を誘導することが効果的である可能性を示唆した。 ・ 評価を受けた点：対象者数の確保や実験デザイン、分析手法などが目的に沿った手法であり、特に作業療法などのリハビリテーション分野でのエビデンス構築に寄与した点で評価を受けた。 <p>なお今回の発表内容の一部は学術誌Neuropsychobiologyに掲載されたものである。(U. Ojui, K. Shiraiwa, ..., R. Ishii (2023) Social Buffering Effects during Craft Activities in Parallel Group Session Revealed by EEG Analysis and Parasympathetic Activity. Neuropsychobiology 1.)</p> <p>掲載URL : https://karger.com/nps/article/doi/10.1159/000531005/854272/Social-Buffering-Effects-during-Craft-Activities</p>	第25回 日本薬物脳波学会学術集会 (2023年8月5日)	<p>【大会概要】 年に1回、産学を問わず、薬物脳波分野に関する研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会です。</p> <p>【規模】 参加者数：約100人 発表数：約30件（シンポジウム含む） 受賞者数：3名</p>

谷口 明日香	たにぐち あすか	被推薦者が第一著者として投稿し、受理された論文、Identification of a xanthine oxidase inhibitor in barley tea (Mugi-Cha) and its contribution to the activityの内容は、焙煎加工食品の健康機能物質研究として、大麦焙煎飲料であり、東洋の伝統飲料である麦茶に着目し、痛風予防に資する含有機能性物質の同定に初めて成功した成果を報告したものである。なお、痛風は、先進国の生活習慣病として現在増加しており、食による予防が期待されている疾病である。加えて、この論文では大麦の焙煎加工状態と機能との相関関係を解析した結果も報告している。その内容は、新たな機能性麦茶の作製に有効なため、機能性飲料の開発を目指す食品企業からの高い評価も得ている。(概要を発表した本年5月の日本栄養食糧学会大会において。)なお、本研究の成果は本年度前期までに得られ、その内容を論文投稿したのが7月13日であるため、今回推薦させていただいた。		【論文受理誌】 Food Science and Technology Research 【論文題と概要】 Identification of a xanthine oxidase inhibitor in barley tea (Mugi-Cha) and its contribution to the activity 【著者】 Asuka TANIGUCHI, Karin OKUBO, Akiko MASUDA, Kazumi KAMEDA, and Toshiya MASUDA 【発行学会情報】 日本食品科学工学会：1953年発会の日本で有数の食品科学系全国学会(支部を6支部有する)。会員は昨年度2165人、内維持会委員(企業等)173という産学連携的特徴を有する。学会誌は和文誌1、欧文誌(本対象ジャーナル)1、欧文誌の採択率は36%。
田路 莉子	とうじ りこ	右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「学生優秀発表賞」を受賞しました。 ・ 標題：「AIN-93飼料はビタミンE研究に適しているか？」 ・ 内容：本研究は、本研究科の生体機能学研究室、名古屋学芸大学、名古屋女子大学との共同研究の成果であり、実験動物の飼育に用いる飼料中に共存するビタミンE異性体や同族体の種類や量によってビタミンE代謝の様相は大きく異なることを示し、栄養学研究において実験動物に何を与えているかを正しく知ることの重要性を再認識させるものであります。 ・ 評価を受けた点：優れた内容の発表であると評価を受けました。	日本ビタミン学会第75回大会 / (2023/6/17~18)	【大会概要】 年に1回、産官学を問わず、ビタミンとバイオファクター関連する研究分野の研究成果について発表し、議論を行う全国規模の学会です。 【規模】 参加者数：2,000人 発表数：122件(口頭発表のみ) 受賞者数：6名
井上 遥香	いのうえ はるか	提案で取り組んだ街区公園のデザイナーが、右記のコンクールにおいて優れた内容であると評価を受け「ランドスケープコンサルタンツ協会会長賞」(特別賞)を受賞した。 作品名「世代(とき)を架ける岩」、同研究科の呉屋 堯音との共同作品 各世代を繋げる装置として岩のようなシェルターを公園の中央部に配置し、屋外でしか生めない音を生み出す装置を計画した点が、街区公園の将来のあり方を考える上で個性を持った公園づくりの可能性を示唆する作品と評価された。	第49回全国造園デザインコンクール(主催：(一社)日本造園建設業協会) (一社)ランドスケープコンサルタンツ協会会長賞 受賞者：井上 遥香/呉屋 堯音 (表彰式：2023/2/11)	【コンクール概要】 昭和49年から、造園デザインと製図技術向上を図るために毎年開催されており、造園学科を持つ学校の授業の一環として、また造園家を目指す一つの目標となっている。 【規模】 応募総数：376点 受賞者数：特別賞7点(入選26点、佳作23点)
呉屋 堯音	ごや ゆりね	居住環境学分野の大学院の授業「計画(設計系)特論」にて、街区公園のランドスケープデザインに取り組み、その作品が第49回全国造園デザインコンクールにて、最も優れた着想とデザインの作品に贈られる(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会会長賞を受賞しました。 ・ 作品名：世代を架ける岩 ・ 審査講評(webサイトより)：ランドスケープコンサルタンツ協会会長賞を受賞された作品は、高齢者から子供まで多世代の人がによって場を共有しつつ、各々の自由な利用(読書、仕事、勉強、遊び等)ができる提案でした。各世代を繋ぐ装置として岩のようなシェルターを公園の中央部に配置し、屋外でしか生めない音を生み出す装置を描いており、着想が素晴らしいと感じました。街区公園の将来のあり方を考える上で個性を持った公園づくりの可能性を示唆する作品でした。	第49回全国造園デザインコンクール(主催：(一社)日本造園建設業協会) (一社)ランドスケープコンサルタンツ協会会長賞 受賞者：井上 遥香/呉屋 堯音 (表彰式：2023/2/11)	【コンクール概要】 全国造園デザインコンクールは昭和49年にはじまり、造園のデザインと製図技術の向上を図るために行われている。 Webサイト：https://www.jalc.or.jp/design/designconindex.html 第49回全国造園デザインコンクールは、高校292校、大学79校、一般3名から総数376点の応募があった。
松村 真衣	まつむら まい	修士研究のテーマを応用して応募した作品「木を膨縮する櫓舎」が第10回 POLUS - ボラス - 学生・建築デザインコンペティションにて入選しました。 ・ 作品名：木を膨縮する櫓舎 ・ 審査講評によると「骨太な構造体で構造をつくり、そこに軽いつけ仕切りが入ってくるというもので、民家の力強さと開放感、また立体的な面白さがあり、私は高く評価した。」(西沢立衛)とコメントされています。	第10回 POLUS - ボラス - 学生・建築デザインコンペティション(主催：ボラス株式会社)入選 (公開審査日：2023/7/3)	第10回 POLUS - ボラス - 学生・建築デザインコンペティション ・ 応募テーマ：令和の時代を生きたわたしたちにとって、いま、本当に快適な木造の家とは、どのようなものだろうか。 ・ コンペ概要：将来の建築業界を背負う学生の、素晴らしいアイデアを募集するコンペ ・ webサイト：https://kenchiku.co.jp/polus/ 2023年は、登録件数566件、応募作品数362点の中から、6組のみの一次審査を通過し、プレゼンテーションを行った。そして、松村さんの作品が入選(上位6点以内)した。
田中 陽子	たなか ようこ	右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「2022年度 日本建築学会情報システム技術委員会 情報・システム・利用・技術シンポジウム若手優秀発表賞」を受賞した。 ・ 標題：南海トラフ巨大地震時の大阪市の津波浸水想定域からの二次避難開始時刻の最適化 ・ 内容：津波被害などで居場所を失うことが想定される多数の住民が、集団で二次避難場所まで移動する際に、混雑を避けて移動できるスケジューリング手法を提案した。 ・ 評価を受けた点：防災の問題設定としては斬新なテーマ設定、精緻な数理モデリング、自治体と共同で研究を進めた点など。	日本建築学会 第45回情報・システム・利用・技術シンポジウム (2022/12/1~2)	【シンポジウム概要】 年に1回、産官学を問わず、建築情報分野に関する研究成果の発表、議論を行う全国規模のシンポジウムです。 参加者数：約200人 発表数：88件(ポスター発表含む) 受賞者数：7名
王 曉銳	おう ぎょうえい	被験者や計測者の負担を抑制する非接触睡眠計測方法の有効性を検証した。研究成果は"Building and Environment" (Volume 233, 1 April 2023, 110095, Elsevier) に掲載された。 Non-contact determination of sleep/wake state in residential environments by neural network learning of microwave radar and electroencephalogram-electrooculogram measurements, 10.1016/j.buidenv.2023.110095		【学術誌】 Building and Environment 【指標】 Impact Factor: 7.4, CiteScore: 11.3 (2023) 【採択率】 約20%(2023年) 【論文の概要】 被験者や計測者への負担を抑制するマイクロ波レーダーによる睡眠覚醒の非接触判定の有効性が示された。居宅の寝室における継続的な非接触睡眠計測の実現可能性が示された。

【大阪府立大学】

土岐 雄人	とき ゆうと	右記の研究発表会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「優秀発表賞」を受賞した。 ・ 標題「Fabrication of the oriented MOF film with a vapochromism」 ・ 内容→異方的な構造をもつMOFの配向膜を構築し、vapochromism特性を評価した。 ・ 評価を受けた点→高品質な試料作製および高い機能性評価に成功し、明瞭な図を用いて順序だてて説明した点。	学術革新領域研究(A)「超セラミックス」 第4回領域会議 若手スクール	【大会概要】 年に2回、超セラミックスを研究する若手を中心に研究内容の発表・議論・交流を行うための発表会です。 【規模】 参加者数：約100人 発表数：36件(ポスター) 受賞者数：3名
瓶 誠	しん せい	右記の国際会議において行ったポスター発表が優れた内容であると評価を受け、「Best Poster Award」を受賞した。 発表題目「Zinc Deposition Behavior in Highly Concentrated Potassium Hydroxide Aqueous Solutions」 内容：10 Mを超える高濃度のアルカリ水溶液中での亜鉛イオン種の析出挙動ならびに充放電サイクル特性を初めて明らかにした。 評価を受けた点：発表内容、英語による質疑応答に優れていた	Asian Conference on Electrochemical Power Sources 11(ACEPS' 11)/(2022/12/14)	【大会概要】 2年に1回、アジアの8か国の持ち回りで、電気化学デバイス(電池、キャパシタ、燃料電池、太陽電池等)に関する研究成果の発表、議論を行う国際会議です。 【規模】 参加者数：400人 ポスター発表数：335件(ポスター発表154件含む) 受賞者数：12名
奈須 混	なす あきら	右記の雑誌に掲載された論文が、優れた内容であると評価を受け「The Ceramic Society of Japa Best Student Paper Award in 2022」を受賞した。 ・ 論文タイトル「Mechanochemical Synthesis of Na3Nb5S4 Metastable Phase as Positive Electrode Materials for All-Solid-State Sodium Batteries」(DOI: https://doi.org/10.2109/jcers2.22056) 著者：Akira Nasu, Atsushi Sakuda, Masahiro Tatsumisago, Akitoshi Hayashi; Received: 2022/4/1, Accepted: 2022/6/9, Published: 2022/9/1	公益社団法人日本セラミックス協会が発刊する学術論文誌(Journal of the Ceramic Society of Japan; 略称JCS-Japan)、毎月1日発行の月間英文誌、1892年発行から現在まで120年以上の長きにわたりセラミックスの科学と技術に特化した内容を掲載し続ける日本唯一の論文誌(2022年1月~12月号掲載分より)	【受賞概要】 2018年より賞が設立され、その年の1~12月号に掲載された論文のうち、筆頭者が投稿・掲載時に学生で選考時に会員であることを条件とし、応募された論文の中から、編集委員会の中から選出した選考委員によって優秀な論文が選ばれる。 【規模】 受賞者数：年間1~3件(2022年度は3件)
矢野 武尊	やの たける	右記の学会において口頭発表を行い、発表の内容および方法が優れた内容であると評価を受け「ベストプレゼンテーション(BP)賞」を受賞した。 ・ 標題「硫化物系固体電解質の粒度分布がイオン・電子伝導度に及ぼす影響」	粉体工学会2023年度春期研究発表会 / (2023/5/15-16)	【大会概要】 年に1回、産官学を問わず、粉体工学に関する研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会です。 【規模】 受賞対象講演数：26件 受賞者数：5名
渡邊 駿一	わたなべ しゅんいち	右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「日本獣医学会学術集優秀発表賞」を受賞した。 ・ 標題「樹状細胞の活性と機能を特異的に増強するアジュバントによる腫瘍免疫治療効果の検討」 ・ 内容：がん免疫療法は、副作用がなく、安全な治療法であるが、治療効果が低い。この問題を解決するため、免疫系の司令塔である樹状細胞(DC)の活性と機能を特異的に増強する生体高分子アジュバントを開発し、がん免疫治療の効果を検討した研究内容を口頭発表した。 ・ 評価を受けた点：①アジュバントによりDCが非常に高いレベルで増強され、高い治療効果を示しただけでなく、転移再発の予防への効果も示唆された優秀な研究成果である②発表スライドのわかりやすさ、発表姿勢、質疑に対する的確な応答であった点	第165回 日本獣医学会学術集発表会 (2022年9月6日~8日 受賞日 2022年10月3日)	【大会概要】 獣医学は研究分野が多岐にわたる学問であるが、年一回、各分野が獣医学として集い研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会である。 【規模】 参加者数：1,400人 発表数：600件以上 受賞者数：37名。各研究分野(13分野)の参加人数に応じて各分野3名前後選出されている。
木村 和人	きむら かずと	①右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「奨励賞」を受賞した。 ・ 標題「iPS細胞を用いた赤血球系への分化誘導」 ・ 内容：異なるiPS細胞系では、赤血球系への分化誘導効率が大きく異なることを明らかにし、赤血球作製に適した細胞株を選定する必要性を示唆した。 ・ 評価を受けた点：上記の研究成果、プレゼンテーション、質疑応答に関して、総合的に高い評価を得た。 ②右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「研究アワード」を受賞した。 ・ 標題「輸血への応用に向けた赤芽球由来iPS細胞の作製と赤血球への分化誘導」 ・ 内容：iPS細胞を用いて世界で初めて赤血球系への分化誘導に成功した。 ・ 評価を受けた点：上記の研究成果、プレゼンテーション、質疑応答に関して、総合的に高い評価を受けた。	①日本獣医再生医療学会第18回年次大会 / (2023/2/26) ②第19回 日本獣医内科学アカデミー学術大会 / (2023/2/26)	①【大会概要】年に1回、獣医再生医療分野に関する症例、臨床研究、基礎研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会です。 【規模】参加者数：200名 発表数：9件 受賞者数：3名、うち奨励賞1名 ②【大会概要】年に1回、獣医内科学分野に関する症例、臨床研究、基礎研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会です。 【規模】参加者数：1759人 発表数：66件 受賞者数：6名、うち研究アワード2名

森本 優洗聖	もりもと ゆきひろ	学術論文が国際的な学術雑誌Scientific Reports(F=4.997)に掲載された。また、博士後期課程在学中に国際学会での発表を2回行った。心理学分野における大学院生の業績として優れていると思われるため、推薦するものである。		掲載された論文は次の通りである。 Morimoto, Y., & Makioka, S. (2022). Serial dependence in estimates of the monetary value of coins. Scientific Reports, 12(1), 20212. https://www.nature.com/articles/s41598-022-24236-z https://doi.org/10.1038/s41598-022-24236-z 国際学会での発表は次の通りである。 Morimoto, Y., & Makioka, S. (2023). Impact of past answer on serial dependence in numerosity perception, CogSci 2023 (poster session), Sydney. 認知科学における世界最大の学会の年次大会。 Morimoto, Y., & Makioka, S. (2021). Visibility of the prime is associated with both inhibition and facilitation in response priming, Vision Sciences Society Annual Meeting (poster session), Online meeting. 視覚科学における世界最大の学会の年次大会。
金山 悠	かなやま ゆう	日本看護教育学会において、日本看護教育学会第32回学術集の最優秀演題賞を受賞した。 演題名：教育指導者の新人看護師と看護学生への学習支援に関連する背景的特徴 日本看護科学学会において、第42回日本看護科学学会学術集の優秀演題抄録賞を受賞した。 演題名：看護学実習における臨床学習環境に影響を与える教育指導者の組織要因の検討	日本看護教育学会第32回学術集/ (2022/8/6-7) 第42回日本看護科学学会学術集/ (2022/12/3-4)	【大会概要】年に1回、看護学分野に関する研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会です。 【規模】・日本看護教育学会第32回学術集 参加者数：1,655人 発表演題数：142題（ポスター発表含む） 受賞演題数：15題、うち最優秀演題賞4題 ・第42回日本看護科学学会学術集 参加者数：4,306人 発表演題数：1,073題（ポスター発表含む） 受賞演題数：35題、うち最優秀演題抄録賞1題、優秀演題抄録賞9題 備考:2022年8月の受賞については、表彰状の到着時期により、昨年度の推薦に間に合わなかった。

【大阪立大学】

山本 彩智	やまもと さち	右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「グッドプレゼンテーション賞」を受賞した。 ・標題「製品マニュアルにおける動画による動作原理の概念説明の有効性」 ・内容：わかりやすい家電製品の操作マニュアルについて、製品の動作原理（しくみ）の概念を提示することの効果性を調査した。また特に、昨今増加している動画マニュアルに着目し、その有効性を検討した。 ・評価を受けた点：この賞は、研究内容・概要・発表質疑の観点から総合的に評価されたものである（各発表への具体的コメントなどは公開されていない）	第70回日本デザイン学会春季研究発表大会/ (2023/6/23-25)	【大会概要】年に1回、産官学を問わず、デザイン分野に関する研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会です。 【規模】参加者数：現時点で公開されていないため不明 発表数：336件（ポスター発表等含む） 受賞者数：23名 など
飯根 夏希	やぶね なつき	右記のオーストラリア、アデレードで開催された国際学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「IC23-Australian Journal of Chemistry Best Poster Award」を受賞した。 ・標題「Effects of structures of bis N-heterocyclic carbene ligands in M3S2 complexes on their reactions with silver(I) ion」 ・内容：メチレン架橋ビスN-ヘテロ環カルベン(bisNHC)-白金二核部位を組み込んだ混合配位子白金三核錯体および混合金属ロジウム白金錯体を合成し、その結晶構造を明らかにした。また、これらの錯体と銀(I)イオンの反応では、メチレン架橋bisNHC-白金二核部位の2つの白金イオンと銀(I)イオンの反応、硫化物配位子と銀(I)イオンの反応が段階的に起こることを明らかにした。 ・評価を受けた点：多核錯体の反応部位を配位子の立体制御によってコントロールした研究内容に加えて、プレゼンテーションと質疑応答の的確さが評価されたと考えている。	20th International Conference on Biological Inorganic Chemistry (held jointly with IC23 - the RACI Inorganic Division Meeting)/(2023/7/16-21)	【学会概要】2年に1回、生物無機化学分野に関する研究成果の発表、議論を行う世界規模の学会です。 【規模】参加者数：450人 発表件数：講演264件、ポスター発表116件 受賞者数：8名、うちIC23-Australian Journal of Chemistry Best Poster Award 3名
佐倉 亮	さくら りょう	被推薦者は、対象活動期間において、別紙（研究業績+根拠資料）に記す通り、学術論文（査読付き）：4編（第一著者2編、第二著者2編）、国際会議（査読付き）：3編（第一著者2編、第二著者1編）、国内外会議（査読なし）：7編（第一著者3編、第二著者4編）に原稿がpublish/acceptされている。このように、被推薦者は国内外問わず数多くの場に対して研究成果の公表を行っており、優れた研究功績にあたるかと判断した。 また、それらの研究成果の公表を行う中で、被推薦者の受賞歴を下記に示す。 ●右記の①において、投稿論文が構造工学における学術・技術の進歩発展に寄与し、独創性と将来性に富むものと認められ「構造工学論文集Vol.69 論文賞」を受賞した。また、被推薦者は昨年度の構造工学論文集Vol.68においても、論文賞を受賞しており、学生による2年連続の受賞は、論文賞受賞の授与が行われた23年間で初めてである。（2023/6/8） ・佐倉亮、山口隆司：ウェブ継手のボルト配置が高力ボルト摩擦接合鋼桁連結部の協働すべり挙動に及ぼす影響に関する解析的検討、構造工学論文集Vol.69, pp. 487-499, 2023.3. ・研究対象である高力ボルト摩擦接合鋼桁連結部は、複数の部材から構成されるとともに、挙動の複雑な摩擦挙動を有することから、詳細な挙動やその強度が未解明であった。そこで、再現の難しい摩擦挙動を考慮した実挙動との再現性を有する有限要素解析のモデルを構築するとともに、その挙動の解明・評価から研究対象の強度式を提案したことが大きく評価された。 ●右記の②に掲載される論文に対して課される口頭発表の場である構造工学シンポジウム②にて、研究成果の発表内容、今後の研究の発展が評価され、「優秀発表賞」を受賞した。（2023/4/27） ・佐倉亮、杉本悠真、酒井武志、山口隆司、北根安雄、三ツ木幸子：締付け軸力と試験前軸力の違いが高力ボルト摩擦接合継手の無機ジंकリッチペイントのすべり抵抗特性に与える影響、構造工学論文集 Vol. 69A pp.442-450, 2023.3 ・研究対象の高力ボルト摩擦接合継手のすべり強度とその接合面に塗布される無機ジंकリッチペイントの多軸力状態におけるせん断破壊挙動との関連性を評価した論文である。その挙動の複雑さ、難解さを、質疑応答を踏まえて分かりやすく聴講者へ伝えることができたことが評価された。 ●右記の③において、研究成果の発表内容、今後の研究の発展が評価され、「優秀発表賞」を受賞した。（2022/10/14） ・佐倉亮、山口隆司、谷口祥基：ウェブ継手のボルト配置が摩擦接合鋼桁連結部のすべり後モーメント分担率に及ぼす影響、令和4年度土木学会全国大会第77回学術講演会、1-95, 2022.9. ・研究対象である高力ボルト摩擦接合鋼桁連結部に対して、すべりが発生した後の詳細な挙動は未解明であった。本稿では、すべり後の支圧挙動の初期段階では、フランジ継手のみで支圧に抵抗していることを明らかにし、設計時の評価方法についても提言したことが評価された。	①構造工学論文集Vol.69 土木学会構造工学委員会の査読付き論文集である。本論文集は年1回定期的に広く刊行されており、3名によるフルペーパー査読を有するオリジナル論文のみを毎年掲載している。また、掲載論文は構造工学シンポジウムの口頭発表が課されており、発表時に質疑応答を行う。 ○規模 論文数：例年90-120編程度、Vol.69は119編 論文賞受賞者数：3名 (2.5%) 優秀発表賞受賞者数：11名 (9.2%) ②土木学会全国大会年次学術講演会 年に1回、産官学を問わず、土木工学分野に関する研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会である。 ○規模 論文数：例年4000題程度 優秀発表賞受賞者数：262名 (約6.6%) ○国際構造工学学会 (International Association for Bridge and Structural Engineering: 略称 IABSE) スイス民法 (Swiss Civil Law) により1929年に設立された土木と建築を包含する、この分野では最も長い歴史と伝統をもつ学会組織である。国際会議は年に2回開催されており、世界各国の研究者の研究発表の場となっている。 論文数：例年500編程度 ○International Symposium on Steel Structuresは、韓国鋼構造協会が主催する鋼構造に関する国際シンポジウムである。このシンポジウムは、韓国のみならず、世界各国から論文が投稿され、鋼構造研究とその応用に関する幅広い技術論文のための国際フォーラムである。 論文数：例年200編程度 ○日台ワークショップは、日本と台湾間で行われる構造・橋梁工学に関するワークショップである。参加機関は、国立台湾大学、国立台北科技大学、国立台湾科技大学、国立陽明交通大学、京都大学、熊本大学、九州大学、大阪公立大学である。 今年度は、計24名が講演を行った。	
福田 雄	いなた ゆう	博士課程の3年半（早期修了）に、筆頭著者として3本（2本が表彰対象期間）の英語論文と1本の日本語総説（表彰対象期間）を出版し、共著者として英語論文1本（表彰対象期間）に貢献した。		(筆頭) 1. Reducing Human Album Solution Use in the Pediatric Intensive Care Unit. Yu Inata, Etsuko Nakagami-Yamaguchi, Takeshi Hatachi, Yukie Ito, Takaaki Akamatsu, Muneyuki Takeuchi Pediatric quality & safety 8(4) e667 2023年 2. Translating and validating the Child Hospital Consumer Assessment of Healthcare Providers and Systems Survey in Japan. Yu Inata, Etsuko Nakagami-Yamaguchi Pediatrics international : official journal of the Japan Pediatric Society 65(1) e15445 2023年1月 3. Quality Assessment of the Literature on Quality Improvement in PICUs: A Systematic Review. Yu Inata, Etsuko Nakagami-Yamaguchi, Yuko Ogawa, Takeshi Hatachi, Muneyuki Takeuchi Pediatric critical care medicine : a journal of the Society of Critical Care Medicine and the World Federation of Pediatric Intensive and Critical Care Societies 22(6) 553-560 2021年2月26日 4. 患者中心の視点で考える小児医療の質とその評価 福田雄, 山口(中)悦子 日本小児科学会雑誌 126(9) 1276-1286 2022年9月 (共著) Quality analysis of the clinical laboratory literature and its effectiveness on clinical quality improvement: a systematic review Chaudhry Ahmed Shabbir, Inata Yu, Nakagami-Yamaguchi Etsuko Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition advpub 2023年

他5名

<団体>

【大阪立大学】

団体名 Name of Team	構成員氏名(代表者)○ Member's Name (Representative, ○) ふりがな Furigana	推薦理由・成績(功績の内容) Reasons for Recommendation.	【学会等における受賞等の場合に記入】 国際大会もしくは国内大会 International competition or National competition / (開催年月日 date)	その他参考事項 Others ※学術誌であれば、タイトルや大会の規模・概要などを記載してください If it is an academic journal, please include the title, scale and outline of the conference, etc.
HELIOS2023	高山 響 (はたけやま きょう) 日紫喜 暁輝 (ひしき あけい) 藤川 拓海 (ふじかわ たくみ)	フランス・ポルドーで開催された右記大会において、本チーム（岡山理科大学と大阪立大学の共同開発チーム）はサッカーシミュレーション2Dリーグに出場し、優勝という成績を収めました。 【規模】 参加者数：50人 参加チーム数：14チーム（日本、イラン、カナダ、ドイツ、ブラジルなど）	世界大会 RoboCup2023/ (2023/7/6-2023/7/9)	・チーム名ふりがな：へりおすにせんにじゅうさん ・左記構成員ほかチームメンバー：岡山理科大学 秋山英久講師